ナスカの地上絵を未来へつなぐ仲間になってくれませんか？

募集期限
2025年9月20日(土)
全力挑戦中！

※所得税寄付控除はございません

ご支援コース(返礼品有り)

- NAPRAホームページ お名前掲載 3,000円
- 地上絵保護プロジェクト リーフレット 10,000円
- 【現地収録】ナスカ オンラインセミナー 20,000円
- 【非売品】地上絵デザイン マグカップ 40,000円
- 現地に作成する解説板にお名前掲載 100,000円
- ナスカ研究者 坂井正人教授 オンライン1on1セミナー 150,000円
- 特別イベント「地上絵を描こう」開催 200,000円
- 坂井正人教授による現地ナスカ地上絵解説(1日) 500,000円
- 坂井正人教授による現地ナスカ地上絵解説(2日) 1,000,000円

※現地ナスカ地上絵解説の開催時期に関しては、日程調整をさせていただきます

ご支援コース(返礼品なし)

- 全力応援コース 100,000円
- 全力応援コース 200,000円
- 全力応援コース 300,000円
- 全力応援コース 500,000円
- 全力応援コース 1,000,000円

返礼品がない分
ダイレクトに支援を届けることができます！

提供:山形大学ナスカ研究所

ご支援は表面Readyforより！

公式X、Facebookでも
最新情報更新中！

一般社団法人ナスカ地上絵協会撮影

これ以上破壊させない！
人類の”謎”世界遺産ナスカの地上絵を守りたい！！

突然ですが、皆さんはナスカの地上絵が**破壊の危機**に瀕していることをご存じでしょうか

南米ペルーに所在する世界遺産ナスカの地上絵。
山形大学ナスカ研究所は最新手法をこれまで**500点以上の新たな地上絵**を発見し、
地上絵の「謎」解明に寄与してきました。

しかし近年、様々な原因によって人類の宝である地上絵が破壊の危機に瀕しています。
私たち**一般社団法人ナスカ地上絵協会**は地上絵を守る保護活動を推進するために、
2024年10月結成いたしました。

そして今回、保護活動の第一歩として地上絵を見えやすくするための作業に取り組みます。
地上絵がこの先も受け継がれ、国を超えて世界遺産の価値を共有し、
それぞれの地域を尊重しあいながら、共生していく世界のために。
ご支援、ご拡散にご協力いただけましたら幸いです。

READYFOR

NAPRA　Readyfor

お問い合わせ先　一般社団法人ナスカ地上絵協会
Email：napra.f.2025@gmail.com

ナスカの地上絵とは?

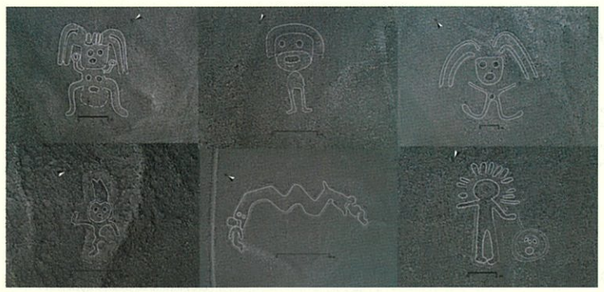
ナスカの地上絵は、南米・ペルー南部の乾燥した沙漠地帯「ナスカ台地」に描かれた、巨大な線画の総称です。
有名なハチドリやサル、人のような姿など、多様なモチーフが大地に刻まれており、
その数はなんと700点以上！

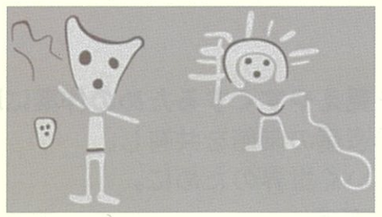
ナスカ台地は標高約500メートルの平坦な砂漠で、東京23区の3分の2ほどの広さ。

乾燥した気候と人の手がほとんど入っていない地理的条件が重なったことで、
2000年以上も良好な状態で保存されてきました。

動物や人間などの地上絵が描かれたのは、紀元前100年から紀元650年ごろに栄えたナスカ社会で、当時の人々の信仰や暮らし、社会の在り方を知る手がかりとして、極めて貴重な文化遺産とされています。

その壮大さと文化的価値から**ナスカの地上絵は1994年にユネスコの世界文化遺産に登録され、**今なお多くの研究者や旅行者を惹きつけています。





提供:山形大学ナスカ研究所

研究所外観　提供:山形大学ナスカ研究所

山形大学のナスカ研究

山形大学は2004年に本格的な研究を開始し、以後約20年間にわたり、人工衛星やドローン、AIなど最先端技術を活用した研究を先導しています。

山形大学によって新たに発見された地上絵は500点以上にのぼり、ナスカの謎の核心に迫る画期的な発見が続いています。

山形大学はペルー政府からナスカ台地全域での学術調査を正式に許可されている、唯一の研究機関です。

2012年には現地ナスカ市に山形大学ナスカ研究所を設立し、
2015年にはペルー文化省と地上絵の学術研究と保護に関する協定を締結。
2024年には、IBM社との共同研究でAIによる地上絵の自動検出と制作目的の解明に成功し、その成果は米国科学アカデミー紀要（PNAS）に掲載、さらには2025年の米国科学アカデミー年次総会でコッツァレリ賞も受賞しました。

かつて「確かなことは誰にもわからない」と言われた地上絵の目的も、
いまや**「科学的に解き明かされる時代」**に入りつつあります。その先頭を走っているのが、山形大学のナスカ研究です。

ナスカの地上絵の現状

山形大学ナスカ研究所は、ペルー文化省と協力し、世界文化遺産・ナスカの地上絵の保護活動に取り組んでいます。
まず、1947年以降の航空写真や衛星画像を解析し、
農地拡大や都市化によって多くの地上絵が破壊されてきたことを明らかにしました。
とくに2010年以降も破壊は続いており、山形大学が発見した地上絵もその被害を受けています。

保護の一環として、山形大学とペルー文化省は2017年にナスカ市アハ地区に「地上絵保護公園」を設立。
ここには同大学が発見した70点以上の地上絵が集められています。

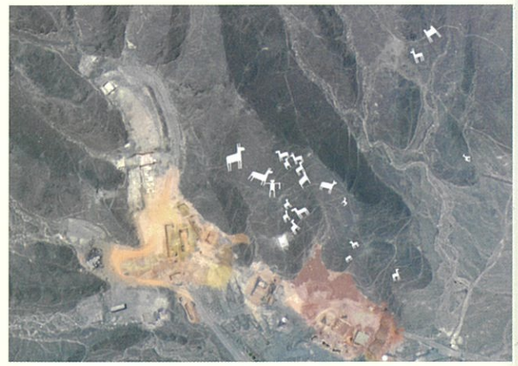
しかし、2023年の大雨によるアクセス道路の破損や、金価格の高騰により、鉱山事業者の活動範囲が拡大しつつあり、新たな脅威が生じています。
鉱山事業者の活動が活発化し、その作業は地上絵の至近まで達しています。

問題は、これらの地上絵が
地域住民にほとんど知られていないこと。
知られていないからこそ、保護されない。

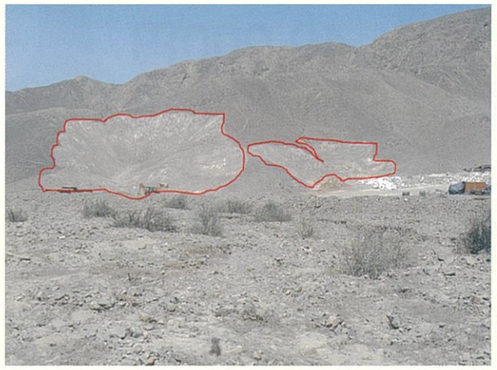
そこで**一般社団法人ナスカ地上絵協会は山形大学ナスカ研究所と協働して『見える化』作業を進めています。**
これは、地上絵を見やすくするための取り組みです。

文化財保存科学の専門家と連携し、元の姿を損なうことなく作業を進めていきます。
また、地上から地上絵を楽しめる環境を整備し、地域経済を活性化させることで、住民が主体的に保護活動に関わる仕組みづくりが求められます。

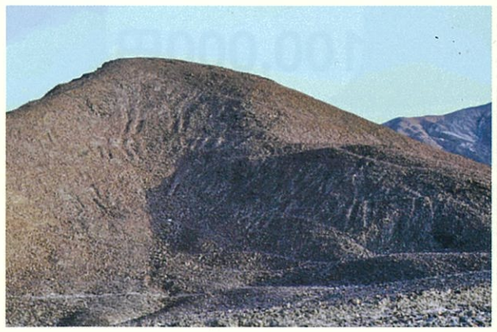
2025年11月からは、まず10点の地上絵を対象に、その形や特徴をよりはっきりと分かるようにする『見える化』作業が計画されています。これは、単なる保護ではなく、
未来へと文化をつなぐための大切な一歩です。



保護対象の地上絵区域の空撮写真。
動物や人物をかたどった地上絵は、視認しやすいよう白く強調してある。
赤色や黄色の部分は鉱山関連作業が行われた範囲を示しており、
その範囲は地上絵のすぐ近くにまで迫っている。
提供：山形大学ナスカ研究所



地上絵が描かれた丘の裏斜面に土砂採掘のため開けた大穴
（2024年10月撮影）提供：山形大学ナスカ研究所



「見える化」作業を行う予定の地上絵
提供：山形大学ナスカ研究所